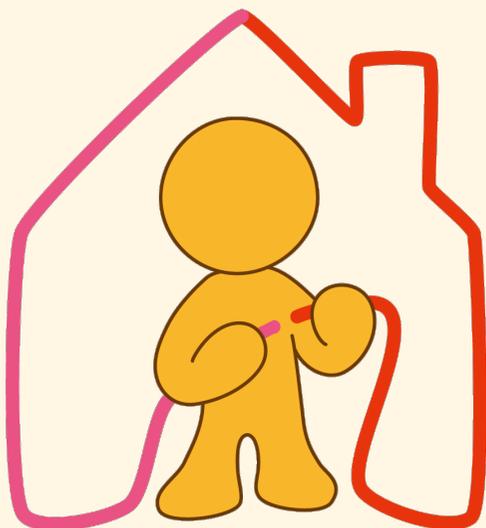
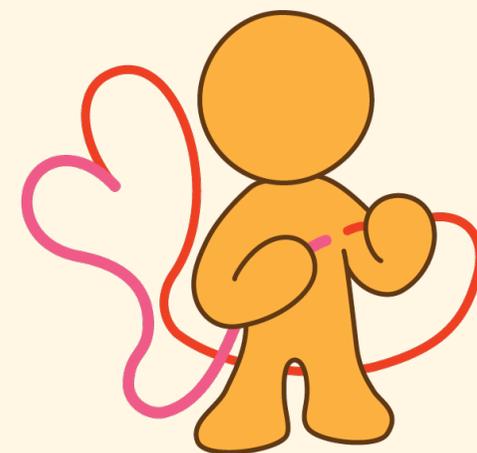




テ ト テ
t e t o t e
～ つなぐん家 ～



一般社団法人つなぐプロジェクト





te to te ～つなぐん家～の取り組みをご紹介します

Point 1 _子ども達へのサポートは4つの柱

1. その子のそのままを受け止め、様々な夢を持つ力を培い「将来〇〇になりたい」と目標を持てるようサポートする
2. 空間を木質化することにより、自分達が置かれている室内空間をヒントに木の与える効果、自然環境について考える力、鳥取県を支える産業を守ることなど子ども達の五感を刺激し、社会や地球環境の改善に目を向けられるようサポートする
3. 食事を共に作り食べる事により、「食べる事」「食材を作る人」「マナー」「食品ロス」など「食」を通じて様々なことを学び教えあい、考える力を養えるようサポートする。
4. 生活面や経済面において自立できる力を養えるようにサポートする

いわば、子ども食堂の大きい版をイメージしていただけるとわかりやすいかもしれません。

これらの4つの柱を大切にその子らしく成長できるようサポートいたします。



Point 2_ つなぐチャイルドサポートシステムの構築 ～日本財団×米子市×つなぐプロジェクト三者共同開発～

- ・子どもの居場所にやってくる子どもたちの外見や表情、仕草、聞き取りなどから置かれている状況のアセスメントを行い、システムから行政への相談・通告の必要性を喚起することで、機会を逃すことなく、子どもの安全・安心の確保と様々な支援につないでいきます。
- ・子どものかかりつけ医などと情報を交換することにより、一人一人にあったサポートの提供につないでいきます。
- ・子どもたちの気になった点について、どのような視点で、どのような取組みを行いどのような変化が現れたのかを記録していくことで、対応事例をライブラリー化し子どもたちへの対応にシステム利用者が活用していきます。
(システム利用者：自治体、医療機関、教育機関、子どもの居場所や子どもを預かる場所)

・今後の予定

- 2022年度 te to te ～つなぐん家～にてテスト運用
- 2023年度 米子市協力のもと子どもの居場所や子どもを預かる場所でテスト運用、精度UP
- 2024年度 県事業化を目指す
- 2025年度 全国の「子ども第三の居場所」並びに自治体での活用を目指す

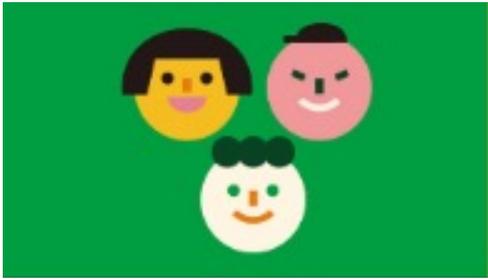
※別添資料あり



Point 3_地域企業との連携

角盤町商店街振興組合のお力添えのもと子ども第三の居場所の必要性を地域企業の皆様がご理解くださり、あらゆる業種の方々が施設開所前から「子ども達のために」の志を掲げ、子ども第三の居場所 te to te ~つなぐん家~の維持継続のために様々なご支援を頂戴しております。今後もあらゆる方向性から支援できるように、アイデアを出し合い実行に向けた活動の輪が広がりつつあります。





特徴

空間木質化

子ども達は木のもたらすリラックス効果により、緊張が和らぎ、木のおもちゃで遊んだり、木の空間の中で学習したり読書をする事で、集中力が高まります。また、地域の方との交流を通じて人との関わる力や自己肯定感を育むことができます。そして、子ども達と触れ合い関わることで、子ども達の抱える課題の早期発見にもつながります。



EnJoin 1F



EnJoin 2F



Jobs

※イラストは設計中のデザインイメージです



コンセプトは
「縁×遊」 + 「丸×いやし」

人と人の縁からはじまる
子ども達と一緒に遊んだり
それぞれの時間を過ごす場
丸は優しさ、人の輪
誰もがいやされるそんな空間

【1階は遊び場】

子ども達がワクワクするようなおもちゃを用意しております。

用意しているおもちゃは木のおもちゃを中心としていて、安来市にある木工製作所「Ton ton」がメンテナンスなどをサポート。

ボードゲームなども取り揃え、子ども同士で協力しあったり、教えあったり、子ども同士の交流が培われるスポットです。また、地域の方と一緒に遊んだり、褒められたりしながら、多世代とのコミュニケーションや、人と関わる力や自己肯定感を育むこともできます。

ベビーTOYもご用意しておりますので、乳幼児と保護者の方が一緒に遊べる場としてもご利用いただけます。



コンセプトは 「円×図書」 + 「団×食」

円はかけたところがない、
また、過不足なく十分ということ
本を読んだり、学習をして、
それぞれの思う知識を満たしていく場
te to te ~つなぐん家~に来る誰もが
ほっとできるように
みんなでお茶を飲みながらお話ししたり、
一緒にご飯を食べる
だんらんできるそんな空間



【2階は家庭のリビングのような場所】

ボランティアのお兄さんに勉強を教えてもらったり、友達同志で教えあったり。地域の方に本を読んでもらったり。みんなでワイワイと楽しく過ごせる場です。そして、キッチンでは一緒に楽しくおやつを作ることでもあります。夕方にはスタッフと子ども達が今日は何にする？と相談しあって、冷蔵庫にある食材を生かし、栄養のバランスを考えながら夕食を作ったり、地域の方と一緒に郷土料理を作るなど食の大切さを学ぶことができる場でもあります。もちろん、乳幼児と保護者の方が遊びにこられた時は、ミルクを作っていただくこともできます。また、イベントを行うなど色々な形で活用できる多様性を持った空間です。



コンセプトは 「学び×仕事」

3Fはプログラミング教室
コンピューターサイエンスが学べる場
コンピューターサイエンスを学ぶことで、
プログラマーやシステムエンジニアなど
今、世界的に人材不足とされている
職業につくことも可能
「不可能を可能へ」
そんな一歩を踏み出せる空間

【3階は学び×可能性を広げられる場所】

緑を基調にした落ち着いた空間です。
本を読んだり、集中して勉強に取り組める静かな場所です。
情報教育の環境も整っていて、プログラマーに教えてもらうこともできます。

ゆくゆくは、プログラミング教室としての発展を考えており、プログラムを一から学べることはもちろん、プログラマーとして自立できることを目標としたサポートの充実を図ります。



レポート！te to te ～つなぐん家～の今

【その1】クリスマス会



te to te 初めてのクリスマス
地域のボランティアの方とケーキ作り
ハラハラ、ドキドキのケーキ作りでしたが、なんとか形になりました♪



レポート！te to te ～つなぐん家～の今

【その2】 節分



願い事をしながら、恵方巻をがぶり！
会員同士で豆まき
真剣な豆まきをした後は、会員の年上グループはへとへとに（笑）



レポート！te to te ～つなぐん家～の今

【その3】高島屋労働組合様からの寄贈



カレーのお皿がなくて困っていたら、高島屋労働組合の皆様から20枚のトレイとお皿のセットをいただきました♪何にでも使えるので、カレーだけでなく今やプレート皿としても大活躍！！子ども達お気に入りの一品となりました。



レポート！te to te ～つなぐん家～の今

【その4】Gビールフェスタin米子



初めてのGビールフェスタin米子！実行委員の皆様がte to te ブースを設けてくださいました。新学期を前に、家では使わないけど子ども達が使えるのでは？というご家庭の品やご寄付をいただき、お返しに自分たちでメッセージを入れたスマホケースをプレゼント。いただいたお品は、自分たちばかりではもったいない。ニュースで戦争で泣いている子を見たよ。te to teに来られない子で困っている子まだいるんだよ。と子ども達自ら他の困っている友達にもわけたいと言い出しました。現在、子ども達は支援方法を模索中！



レポート！te to te ～つなぐん家～の今

【その5】 BSS主催 『BSS×SDGs te to te で体験授業』 開催！！



BSS主催 te to teでお仕事体験授業を開催いただきました。山陰地方6社、鳥大、島大のご協力のもと、朝10:00～16:00頃まで授業を行なってくださいました。1日もつかしら？わからない！って逃げ出さないかしら。などなど不安は沢山あったものの企業や大学の皆様の授業がおもしろい！！と1日誰一人脱落者もなく参加。予想を遥かに超えた子ども達。この体験授業の様子は、4月23日（日）、30日（日）の「みっけ！さんいんSDGs」という番組で2週にわたって放送されます。皆様、ぜひご覧ください。



最後に

te to teに来る子ども達は、現在22名。小学校1年生～高校3年生まで満遍なく利用しています。不登校、ひきこもり、発達障害、育児放棄、貧困家庭、非行、孤食、ひとり親家庭、医療的ケアが必要な子どもの兄弟など、本当に様々な課題を持つ子ども達です。

子ども達が、te to teに初めてきた時、無表情の子や「学校」という言葉そのものにも恐怖を覚え癇癪を起こす子。さらには、絵本、鉛筆をみただけで逃げ出す子もいました。

時には、癇癪がひどく自傷行為に走る子もいます。

ですが、自分たちの力で一つ一つ乗り越えています。この春、不登校、引きこもりの子ども全員が「学校に行ってみようと思う、今川さんも石原さんも待っててくれるよね、学校に行ったら帰ってくるね」と言ってくれています。涙が出ました。

子ども達の変化は、この地域の皆様がte to teの子ども達を本当に可愛がってくださっているからこそ、生まれた変化です。地域のボランティアの方々は、子ども達の痩せ細った様子に驚き、必ずと言っていいほど毎日顔を見にきてご飯作りを手伝ってくださり、時には学習支援にも携わってくださいます。地域企業の皆様は、温かく声をかけてくださったり、これなら子ども達にもできるんじゃないかとお仕事をご提案いただくなど、誰もが子ども達を認めその成長を促してくださっています。そのお陰様で、子ども達は全員標準体重を超え、表情も豊になりました。

保護者の方々も、変わりました。子ども達の成長と共に、親御さんも心に余裕を持てるようになったのか、子どもの声に耳を傾け、中には初めて我が子を愛おしいと思ったと泣かれたお



本日も、見学の親子さんがいらっしゃいました。
日々、悲しみを抱えた子どもそして保護者の方がte to teを尋ねて来られます。

課題を持った子の問題は、ニュースなどの報道でお聞きおよびとは存じますが、都会で起きていることではなく、今まさにこの米子でおこっている事実です。

子ども達の抱えている悩みは複雑化しています。そして愛情を必要としています。
自分を認めてくれる人を求めています。

どの子どももその子らしく子ども時代を過ごすためには、私共だけの力だけでは難しく、何よりも地域の皆様のお力添えが本当に必要です。

米子市中心市街地の地域コミュニティにより、te to teの子ども達は再び子ども時代を自分の手でつかみなおす事ができました。今後も、昭和にあった地域のコミュニティのように、米子市中心市街地だからこそできる、令和時代地域コミュニティを皆様と共に築き、その絆を深め、子ども達を皆様と一緒に大切に育てていきたいと考えています。

子ども達が「やっぱり鳥取が好き」と思える地域でありますように。
そして、いつかte to te ～つなぐん家～を卒業した子ども達が、この地域で活躍し今度は皆様のお役に立てる日が来ることを心から願い、地域の宝である「子ども達」のサポートにこれからも努力をおしまず精一杯の力を尽くしてまいります。